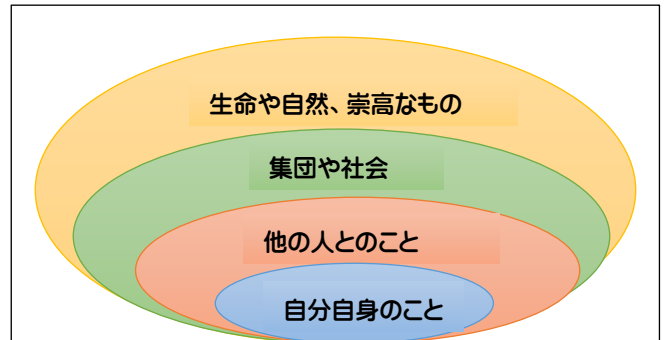


## 道德で育てたい力

道德教育で育てたい力の4つの視点は、「A主として自分自身に関すること」「B他の人との関わりに関すること」「C集団や社会との関わりに関すること」「D生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を考えていきます。自分から他の人、集団や社会、自然や命と子供たちの心の広がりイメージできます。その中で、低学年は19項目、中学年は20項目、高学年は22項目の内容項目を子供たちが主体的に養うことを目指しています。



例えば、「A自分自身に関すること」には、低学年：「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」、中学年：「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」、高学年：「自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をすること」と、「善悪の判断、自律、自由と責任」について発達段階に応じて指導していくことになっています。

龍野っ子が自分たちで生きる土台作りとして、道德の授業づくりを工夫して取り組んでいます。

### 道德科の授業紹介 第1学年「だれとでもなかよく」かずやくんのなみだ

主人公「ぼく」は、みんなと遊ぶ鬼ごっこが大好きです。はじめは、走りが遅く誰からも誘われないかずやくんの存在に気づかないふりをしていた「ぼく」でしたが、涙を流すかずやくんを見て、かずやくんの悲しみやみんなと一緒に遊びたいという願いは自分と同じであることに気づきました。そこで、「かずやくんも遊びにいれよう」とみんなに伝えます。そして、かずやくんを入れたみんなで鬼ごっこをした「ぼく」は、今までで一番楽しい鬼ごっこになったというお話です。



授業では、まずある学校の1年生が鬼ごっこをしている場面を紹介し、その中で一人ぼっちで泣いているかずやくんを紹介しました。なぜ泣いているのか尋ねると、「遊びたくないと言われた」「仲間はずれになった」「遊んでくれない」など、たくさんの意見が出ました。かずやくんのクラスのお友達にどうしたらいいか教えてあげようと、授業が展開していきました。子供たちは、教材の紙芝居を見てたくさん考えていきました。かずやくんが一人ぼっちでいるのに気づかないふりをしていた主人公の気持ちを考えました。かずやくんは足がおそいからかたない、一緒に遊ぼうというのは言えない、など考えました。

「今までで一番楽しい鬼ごっこと思ったのはなぜか」というわけは、「かずやくんも一緒だから」「かずやくんも鬼ごっこに入れてうれしい」「一人で遊んでいる人や泣いている人がいないから」など発表していました。

「だれとでもなかよくするために大切なこと」は、「みんなで」「一人の人がいない」「えがお」「泣いている人がいない」など考えていました。

「〇〇さんと似ていて～です」など、友達の意見を聞きながら発表してくれた1年生。聞き方名人、発表名人に近づいています。

みんなで考え、みんなでつくった素敵な道德の授業でした。

